

第7回全国障がい者スノーボード選手権&サポーターズカップ 簡易ルール

レース方式=タイムアタック制

予選はなく、決勝のみの滑走。2本滑り、1本目または2本目いずれか上位のタイムによって、順位を競う。

競技の実施

決勝（予選無し）

- 1本目 選手は全員決勝として1本目を滑る。
- 2本目 選手は全員決勝として2本目を滑る。
- 1本目または2本目の早いタイムで順位を決定する。

タイブレーク

同タイム同順位があった場合は、もう一方のタイムを比べ順位を決定する。
全て同タイムの場合は同率順位とする。

リバーススタート

2本目は障害カテゴリーは1本目と同順であるが、障害カテゴリー内の順番を逆順にスタートする。

失格/制裁

失格の理由は次の通り

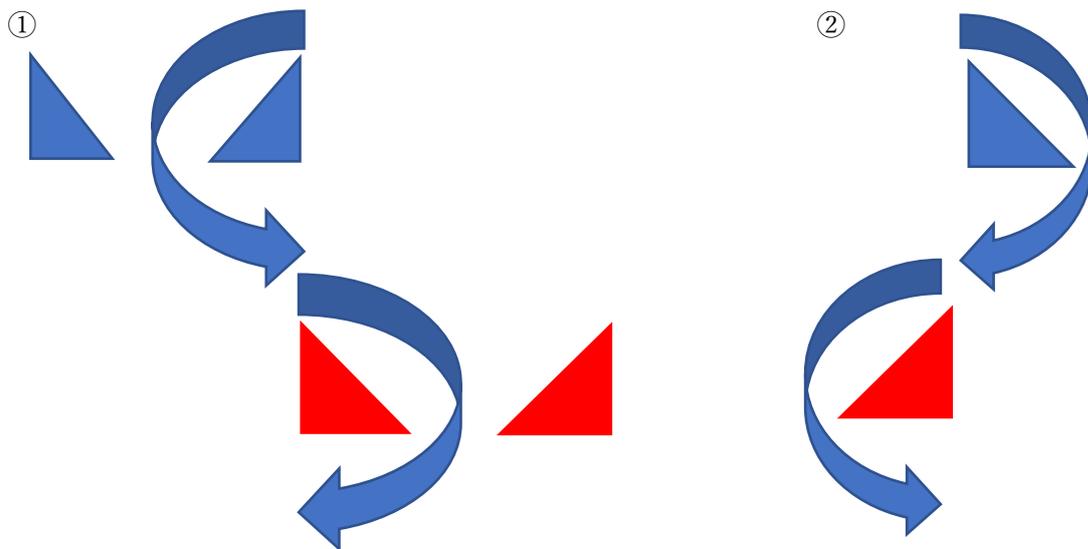
- 不正スタート（ヘルメット付着用）
- 旗門の不正通過
- 旗門の外側でターンをしなかった場合
- ゴール時に少なくとも片足がボードに固定されていない場合
- 途中棄権した選手
- 義足が外れ滑走が困難な場合

旗門

旗門は、三角バナーで連結されたターニングポール1本とアウトサイドポール1本から構成される。1ターン内の複数セットされる旗門は同色で、連続するターン毎に色を変える。

選手は三角バナーが*①左右にターニングポール2セット場合はターニングポールとターニングポールの間をすべる。*②1セットの場合はターニングポールの外側を滑る。

*三角バナーがセットされず。ターニングポール2セットのみの場合①と同様とする。



旗門数

コースセクションに合わせた数をセットする。

コース整備

できるだけ固い雪の上で競わなければならない。競技中に降雪があった場合、コース係長（旗門員長）はスタッフを指揮し、その雪をパックするか、もし可能であればコースから除雪しなければならない。

コースセッティング

コースは、選手の平均能力に相応するものとする。

コースインスペクション

選手は、スタートからゴールまでコースまたはコース脇を滑り降りる方法で、10-15分間のインスペクションを実施する。選手は、インスペクション中に旗門に触れる(握る)ことを禁じられている。

インスペクションの方法は大会実行委員長が決定する。選手は、スタートビブを携行しなければならない。

選手がコースで「シャドーライド＝本番同様にスピードを出しコースを滑る」をすることは禁止されている。基本的には横滑りでコースを滑り、のぼりの部分を乗り越える際のみ、ボードのノーズをフォールラインに向けることは可能とする。

選手は1回目の違反行為には警告が与えられ、2回目の違反行為には当該種目における失格処分が科せられる。

降雪の場合は選手にもデラがけの協力をお願いする。

雪が柔らかい場合はコースに入らず、コースわきからのインスペクションを行う。

インスペクション指示はスタートにて事前にスタート係員が選手に連絡する。

スタート

スタートインターバル

選手は規則的なスタート間隔でスタートする。スタート係又はその特別アシスタントは、スターターに各選手がいつスタートしなければならないかを伝える。コース上の選手がゴールラインを通過し、次の選手はスタートできる。

スタート順

- 1 本目は、スタートナンバー順にスタートする。スタートナンバーは、無作為のマニユアルドローの結果に従って交付される。
- 2 本目のスタート順については、リバーススタートとする。障害カテゴリーは1本目と同

順で、障害カテゴリー内のビブ順をリバースする。

スタート合図

スターターは、次のスタートの指示を受け次第、選手に「Attention, Racers, Ready (用意)」と告知し、数秒後に「3, 2, 1, Go! (スタート)」というスタート合図を出す。

公式スタート時間の前後各 5 秒という制限時間以内にスタートすれば、スタート時間は有効となる。この制限時間内にスタートしない選手には警告を発する。警告後スタートしない場合は失格とする。

役員に呼ばれてから 1 分以内にスタートに現れなかった選手は、「不可抗力」により遅刻した場合を除いて制裁や失格となる。前の選手が現れないために発生したスタート時間の繰り上がりは、考慮する必要がある。ただし、スタート審判は、「不可抗力」によると判断した遅刻を容認することもできる。疑いがある場合、ジュリーは選手に仮の再走を許可できる。

スタート台

スタート台は、選手がスタートラインにゆったりと立つことができ、スタート後直ちにフルスピードに達することができるように準備しなければならない。

不正スタート

次の場合、失格となる。

選手がスタートゲートを操作した場合。

スタート合図（聞き取れる および/または 見える）が出る前に、選手がスタートゲートを通過しようとした場合。

ゴール

ゴールエリア

ゴールエリアは、ゴールに近づいてくる選手が視覚的にはっきりと認識できるものでなければならない。またゴールエリアは幅が広く、ゆるやかでスムーズなアウトラインを備えていなければならない。ゴールエリアは、整備が行き届いていなければならない。

コースに旗門を立てる時は、地形に沿った自然なラインを描いてゴールラインを切れるように選手を誘導することに、特に注意する必要がある。

ゴールエリアは、完全にフェンスで囲まなければならない。無許可の入場はいかなるものであれ、防がなければならない。

ゴールにある構造物との衝突を防ぐため、適切な保護措置等を講じて安全にするものとする。

滑走を終了した選手のために、実際のゴールとは別に特別エリアが用意されるものとする。このエリアでは、報道陣(印刷メディア及び視聴覚メディア)が可能であるとする。但し、コロナ感染防止を踏まえミックスゾーンを設定する。

ゴールラインとそのマーキング

ゴールラインは2本のフィニッシュポスト、又は2枚のバナーの間の距離をゴールの幅と考える。計時装置を載せる杭も最低でもこの幅を確保し、保護する必要がある。計時装置用の杭はゴールポスト又はバナーのすぐ後ろで、傾斜の下側に設置される。

ゴールラインは着色剤ではっきりと印さなければならない。

ゴールラインの通過

ゴールラインは以下の状態で横切らなければならない：

- 少なくとも片方の足がボードに付いている。
- ゴールエリア直前で転倒した場合は、両足で横切る。この場合、選手の身体又は用具のいずれかの部分が計時システムを止めた時にタイムが計測される。

リザルトの計算及び発表

非公式タイム及びスコアについて、計時員が計測したタイムは、非公式タイムと見なされる。チェックを受け確認される前に発表されるスコアも非公式と見なされる。非公式タイムや非公式スコアは、ウェブ上またはスタートのスコアボードに掲示される。可能な限り、非公式タイムは観客にもスピーカーによって発表するものとする。

非公式タイム、スコア、失格の発表

非公式タイム、スコア及び失格は、競技終了後、できるだけ早い時点で発表するものとする。ゴールエリアとスタートエリアでの非公式タイムの発表をもって、公式発表に代えることができる。この場合でも、抗議は失格発表後直ちに申し出なければならない。又は遅くとも15分以内にゴール審判に口頭で申し出ること、さらにその後持ち込まれた抗議は無効とする取り決めをすることができる。

公式リザルト

公式リザルトは、失格とならなかった選手のタイムやスコア又は着順によって確定する。複数の選手が同タイム、同スコアは同着となり、順位分けができない場合は、ルールに従って選手全員が同位を獲得する。記載は順位の大きいものから記載する。

公式リザルトには、次の事項を記載しなければならない

-主催連盟の名称

-競技会名、会場、種目、カテゴリー、(男子又は女子)

-競技実施日

-コース名、コース全長

大会テクニカルデータ

競技：スノーボードクロス（タイムアタック）

ゲレンデ：若栗中央ゲレンデ

コースの標高差：20m コースの地表の全長：350m 平均斜度は 10 度